

笠岡市立カブトガニ博物館

特別展示 「干潟のいきもの～カブトガニのゆりかご～展」

開催期間：平成27年7月18日（土）～9月30日（水）



【企画展の内容・目的】

- 笠岡市内にある天然記念物「カブトガニ繁殖地」内に広く見られる「干潟」にスポットを当て、そこに暮らす様々な生き物についてや、干潟そのものが「海の浄化」や「生物多様性の維持」といった役割を担っていることを紹介し、身近な海の特徴や役割を伝えていく機会としました。
- 笠岡市の干潟がカブトガニの繁殖地として保護されていることから、カブトガニの幼生放流や生き物観察会、ビーチクリーン等の様々な関連事業を通じて、地元の海の豊かさや、自分たちで守っていく意識を体験的に学べる機会としました。
- 地域ならではの海の特徴や生物を題材として、海の豊かさなどの現状や、環境の変化や生物種の減少といった課題を体験活動を通じて知り、自分達に何ができるのか、どうすれば未来に残せるのかに気付く機会としました。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成27年7月18日（土）～平成27年9月30日（水）
- 開催場所：笠岡市立カブトガニ博物館 特別展示室
- 入場者数：20,040人



カブトガニ博物館 外観



企画展会場 入口



カブトガニの幼生水槽と繁殖地の干潟の様子を展示したコーナーを見る来館者



企画展会場で干潟の泥の感触やにおいを体験する子どもたち

干潟には「海の水をきれいにする効果」などの重要な役割があることを紹介するとともに、地元の干潟の分布や、昔と現在でどのくらい狭くなったのかを紹介しています。また、干潟の「におい」も紹介し、五感で学べるよう工夫しています。



干潟の役割である「生物多様性の維持」について、アマモの藻場とそこに暮らす生き物を紹介するとともに、それをエサとして集まる鳥などを紹介し、干潟を中心として生物の多様性が保たれていることを、実物展示により紹介しています。



干潟の減少とともに、そこに生息している生き物も減ってきていることについて、地元ならではのカブトガニをはじめとした生き物を生体展示したり、何気なく海岸で手にした貝殻なども実は希少な貝であることを展示したりすることにより、干潟を守ることが、豊かな生物多様性や海の環境を守ることにつながることを紹介しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



干潟に生息している生き物を直接手にできるコーナーを設置することによって、普段なかなか目にすることのない海の生き物に親しみを持ち、学校教育ではあまり体験できない実体験コーナーとしてタッチコーナーを設置しました。普段あまり海辺で遊ぶ機会が少ない子ども達にとって、身近な海に棲む様々な生き物たちについて知る事が出来たと共に、海で生き物を探す楽しさに気付く機会となりました。

【来館者の声】

- 若い小さなカブトガニの生態展示も見てみたい。
- 海の生物にふれあえてよかった。
- 干潟の役割や大切さがよく分かった。
- 初めて見る生き物がいて、楽しかった。
- 全体的に専門用語が難しく、子どもには少し分かりにくいのではないかという印象を持ちましたが、面白かった。
- 身近な海の様子が知れて、よかった。
- 泥の違いが良かった。
- 他では見られないような事なので、知ることができて楽しめました。
- 昔と今の見くらべが楽しかった。

など

2. 関連事業の内容

■自然体験学習「海辺の学校」

【開催日時】平成27年7月29日（水）13:00～16:00

【開催場所】笠岡市立カブトガニ博物館ログハウス、大殿洲海岸

【参加者数】15家族43名（子供28名、大人15名）

【実施内容・目的】

- 身近な干潟に実際に訪れ、そこに棲む様々な生き物の観察を行い、地元の海の豊かさや守る事の大切さを体験的に学ぶ機会となる事を目指しました。
- 干潟が海水を浄化する役割の学習や、カブトガニの幼生放流によって、干潟が海の環境や生物多様性の維持に重要な役割を持っていることや、地域ならではのカブトガニを通じて絶滅の危機にある生き物がいる事、自分たちが海の生態系や環境を守っていくという意識をもつ機会としました。



会場ログハウス



受付の様子



干潟や生物の機能の一つである「海の浄化作用」についての説明を聞いたあと、アサリやカキがいかに海水を浄化しているのか、実験を通して学びました。



事前学習の後、実際に干潟に行って、そこに棲む色々な生き物を見つけます。見つけた後は学芸員の説明による観察会を行い、名前や特徴などを記録したり絵に描いたりし、最後に生き物を海に返し、生き物や環境保護について体験的に学ぶ機会となりました。



アサリの海水浄化実験を通じた干潟の役割の学習や、カブトガニの幼生放流により、干潟の大切さや絶滅の危機にある生き物がある事、自分たちが地域の海の生き物や環境を守っていくという意識を体験的に学ぶ機会となりました。

【参加者の声】

- 干潟に予想以上にたくさんの生き物がいたので驚いた。
- カニのハサミにはさまれていたかった。
- 貝殻を集めたり、干潟や磯の生物を実際に採集したりして、楽しかった。
- 色々な生物のことが分かって楽しかった。
- アサリやカキが海水を浄化していることを知って、掘らないようにしようと思った。
- 昨年放流したカブトガニがいて、嬉しかった。
- カブトガニの幼生放流を通して、皆で海岸を清掃し海をきれいにすることが大切だと思った。
- カブトガニの幼生放流を体験して、干潟の環境をととのえることが大切だと思った。

■カブトガニ保護少年団夏期研修会

【開催日時】平成27年7月31日（金）14:00～16:45

【開催場所】笠岡市立カブトガニ博物館ログハウス、鳥ノ江海岸

【参加者数】笠岡市立笠岡東，笠岡西，金浦，大島，神島外中学校の生徒

【実施内容・目的】（当日参加 5校 計 70名）

- 笠岡市内5校の中学生で結成された、「カブトガニ保護少年団」の研修会を開催し、カブトガニ繁殖地のある干潟の環境とカブトガニのことで学ぶ機会としました。
- カブトガニ幼生の飼育現場を見学し、開催中の特別展示も併せて見学することにより、現在のカブトガニ繁殖地の環境を学ぶ機会としました。また学習後は、団員全体で干潟の観察会とカブトガニ幼生の放流を体験することで、カブトガニを通じた海の環境保護の重要性を学び、海の環境保護を意識できる人材を育てる場としました。



会場 ログハウス



夏期研修会の様子



カブトガニ幼生の飼育現場見学

（博物館産卵池にて）



繁殖地の干潟の生物観察

（笠岡市西大島鳥ノ江海岸）



干潟観察中に見つかった生物
(スナイソギンチャク 掘り出した所)



カブトガニの幼生放流
(2 齢～3 齢幼生 350 匹を放流)



放流したカブトガニの幼生



干潟の観察と幼生放流を行った鳥ノ江海岸
(カブトガニ繁殖地 神島水道)

実際に干潟へ行く前にカブトガニ幼生の飼育方法や、展示している希少生物、干潟の環境や役割について学びました。身近な海の環境が希少な生き物たちの繁殖の場となっていることや、海の浄化作用があること、様々な生物たちが集まる場であることなどを学ぶと共に、そこにすむ生き物や海への親しみを持つ機会となりました。

【研修参加生徒の声】

- 実際に干潟に入ってみて、予想以上に干潟がぬかるんでいたので驚いた。
- 岩をはぐってみるとたくさんの生き物がいて、楽しかった。
- 実際に小さなカブトガニをさわられて良かった。
- 放流したカブトガニが大きくなってほしいと思った。
- ゴミなどを捨てないようにしようと思います。
- タツノオトシゴが採集できてよかった。
- シャミセンガイなどの貴重ないきものを初めて見た。

■カブトガニの幼生放流

【開催日時】平成27年8月1日（土）14:30～16:00

【開催場所】笠岡市立カブトガニ博物館、大殿洲海岸

【参加者数】募集による一般参加者 52名

【実施内容・目的】

- 一般公募により参加者を募り、地域特有の希少生物であるカブトガニの幼生放流を体験してもらいました。
- 実際に生きているカブトガニの幼生を干潟に放流することによって、カブトガニをはじめとする海の生物に興味と親しみを持ってもらいました。また、カブトガニを始めとした様々な生物達が暮らす海の豊かさを再発見して頂くと共に、地域の海の大切さを学ぶ機会とします。



カブトガニの幼生放流（開会式）



カブトガニの幼生放流（放流説明）



カブトガニの幼生放流（放流説明）

（説明を聞く参加者）



放流したカブトガニの幼生（1人分）

（今回は、3齢幼生300匹を放流）



放流場所の干潟へ移動する参加者



館長の合図で放流する参加者（バケツに入れた海水ごと放流）

博物館で生まれ育ったカブトガニの幼生を実際に間近で見、干潟に放流することによって、希少な生き物であるカブトガニを身近な海の生物であると感じ、カブトガニそのものや生息する環境を守っていかなければいけないという気持ちを育てる機会となりました。

【参加者の声】

- 小さなカブトガニを近くで初めて見た。
- 触ると壊れそうなくらい、小さかった。
- 大きくなってほしいと思った。
- 来年も参加したいと思った。
- カブトガニが意外と早く動くので驚いた。
- 一生懸命泥に潜ろうとする姿がかわいかった。
- 飼ってみたいと思った。

■リフレッシュ瀬戸内 笠岡市海岸クリーン作戦

【開催日時】平成27年7月19日（日）8：00～9：00

【開催場所】カブトガニ繁殖地とその周辺の海岸

【参加者数】笠岡市とその周辺の各種ボランティア団体

（当日参加 35団体 1,010名）

【実施内容・目的】

- 笠岡市とその周辺の各種ボランティア団体に呼びかけ、カブトガニ繁殖地とその周辺海岸で清掃活動を行いました。
- 海岸に落ちている大量のゴミを目の当たりにして頂くことによって、地域の海の現状を知って頂き、環境保護の大切さについて考えるきっかけとなりました。
- 海岸清掃を行い地域の海をきれいにすることで、郷土の海に親しみを持ち、海の環境を守ることの大切さを感じてもらおう機会としました。



海をリフレッシュ守ろうカブトガニをスローガンに清掃活動開始（メイン会場 片島海岸）



メイン会場（笠岡湾 片島海岸）での清掃活動



神島寺間海岸での清掃活動
（地域の人々が参加し活動に汗を流す）



収集された海岸のゴミ
（この日は約6トンの海ごみが回収された）



テトラポットの間に捨てられた自転車



清掃活動終了後に特別展示を見学する参加者

国の天然記念物に指定されている「カブトガニ繁殖地」やその周辺の海岸を実際に歩き、海ゴミの多さを実感して頂くことによって、郷土の海の保全に対する思いを持って頂く機会となりました。海岸清掃後には特別展見学をして頂き、海岸が生物の宝庫であること、海の浄化作用があることなどを学んで頂き、海の環境保全の重要性を再確認して頂きました。

【参加者の声】

- 毎年参加していますが、色々なゴミがあり悲しくなった。
- 自転車が捨てられていたのには驚いた。
- カブトガニがすむ環境をきれいにするという達成感があります。
- 掃除の後、特別展示が見られてよかった。
- 一人一人がゴミを出さないようにすることが大切だと思った。

【事業全体のまとめ】

カブトガニ博物館のある瀬戸内海では、身近にある干潟。そこには、カブトガニをはじめとする、様々な生き物が棲息している。しかし、近年、干潟は干拓や埋め立てによって狭められてきた。また、小中学生を中心とする子供たちは、屋内で遊ぶことが多くなり、目の前に広がる干潟や海に親しむ機会は激減している。

今回の企画展及び付帯行事は、子供たちに身近にある干潟や瀬戸内海に目を向け、足を運び、干潟の生き物を通して、海を再認識してもらうことを最大の目標に、企画を行った。

岡山県南西部と隣接する広島県西部には、自然史系の博物館が少ないため、地域を代表する社会教育施設として、瀬戸内海と干潟をテーマにした事業を行うことで、地域の自然史について興味と関心を持ってもらうことができた。

カブトガニ繁殖地を望む地域の生涯学習施設として、干潟の生き物を通じて、できるだけ海を体験するプログラムを企画し、海への親しみを持たせることで、地域の宝であるカブトガニと国指定天然記念物である繁殖地の保護をアピールすることができた。

カブトガニ博物館として、海洋教育を行うことにより、カブトガニのみならず、海を中心に始まった生命の長い歴史と、瀬戸内海の生物相の豊かさ、引いては、自然環境保護の重要性を学習する場を提供することができたことは、大きな成果であった。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
カブトガニ保護少年団	夏期研修会への参加（市内5校 70名）
公募による一般参加者	カブトガニの幼生放流への参加（市内外から52名）
笠岡市とその周辺各種ボランティア団体	リフレッシュ瀬戸内 笠岡市海岸クリーン作戦への参加（35団体と個人参加者 合計1,010名）

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 笠岡市ホームページ	平成27年6月30日公開
2. 広報かさおか	7月号
3. 山陽新聞	平成27年7月29日掲載
4. 山陽新聞への折り込み広告	夏の思い出2015 平成27年7月15日掲載

以上